

2020
カトリック
聖徒伝 104

「神の祭司である 信仰者の使命」

歴代誌第一 22～24章

イスラエルの礼拝と祭司

アウトライン

0. イントロダクション

I. 神殿建設の準備 22章

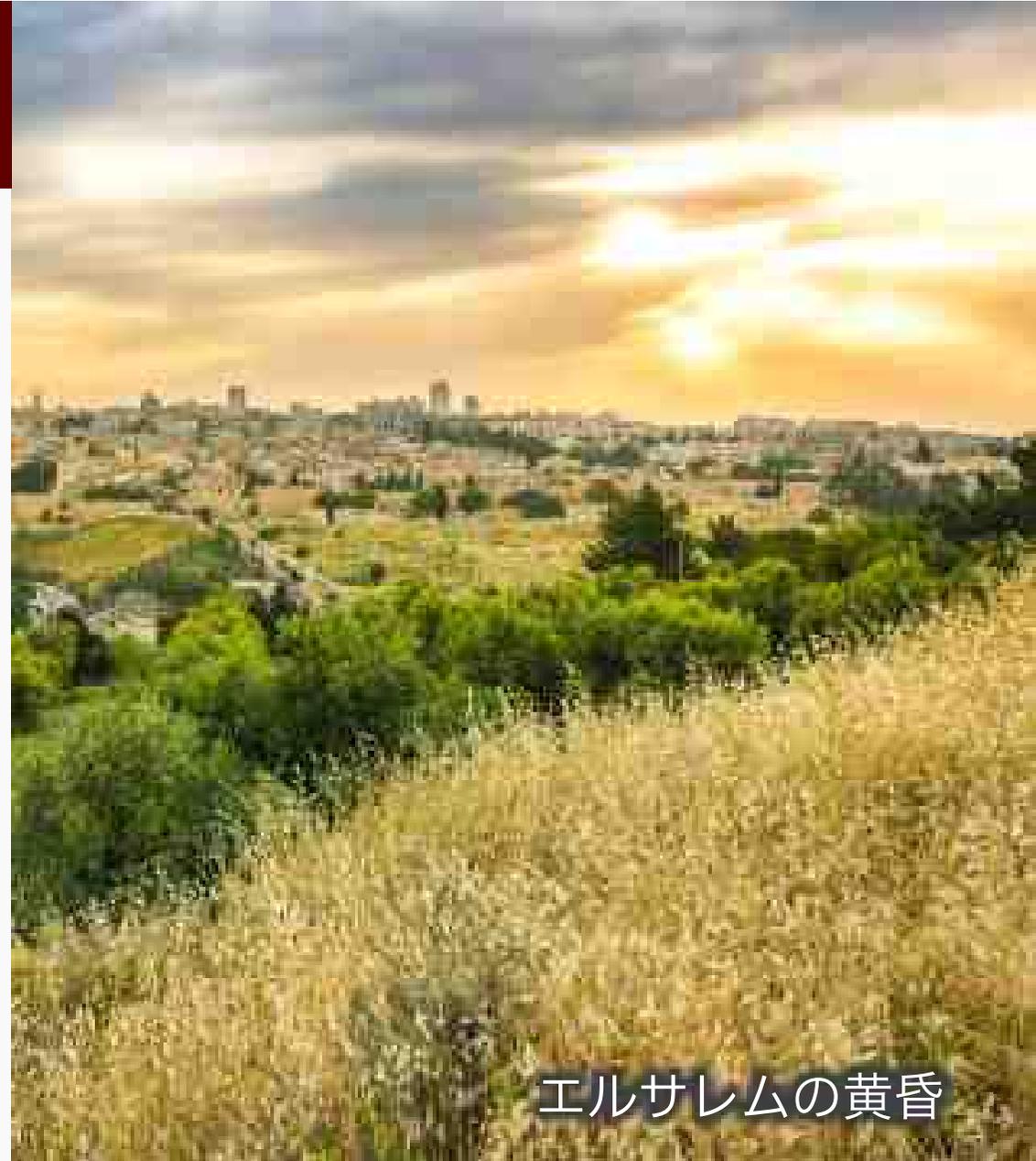
II. 主の宮の奉仕者 23章

III. 祭司の組み分け 24章

IV. まとめと適用

生ける神殿の建て上げこそ

私の使命



エルサレムの黄昏



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

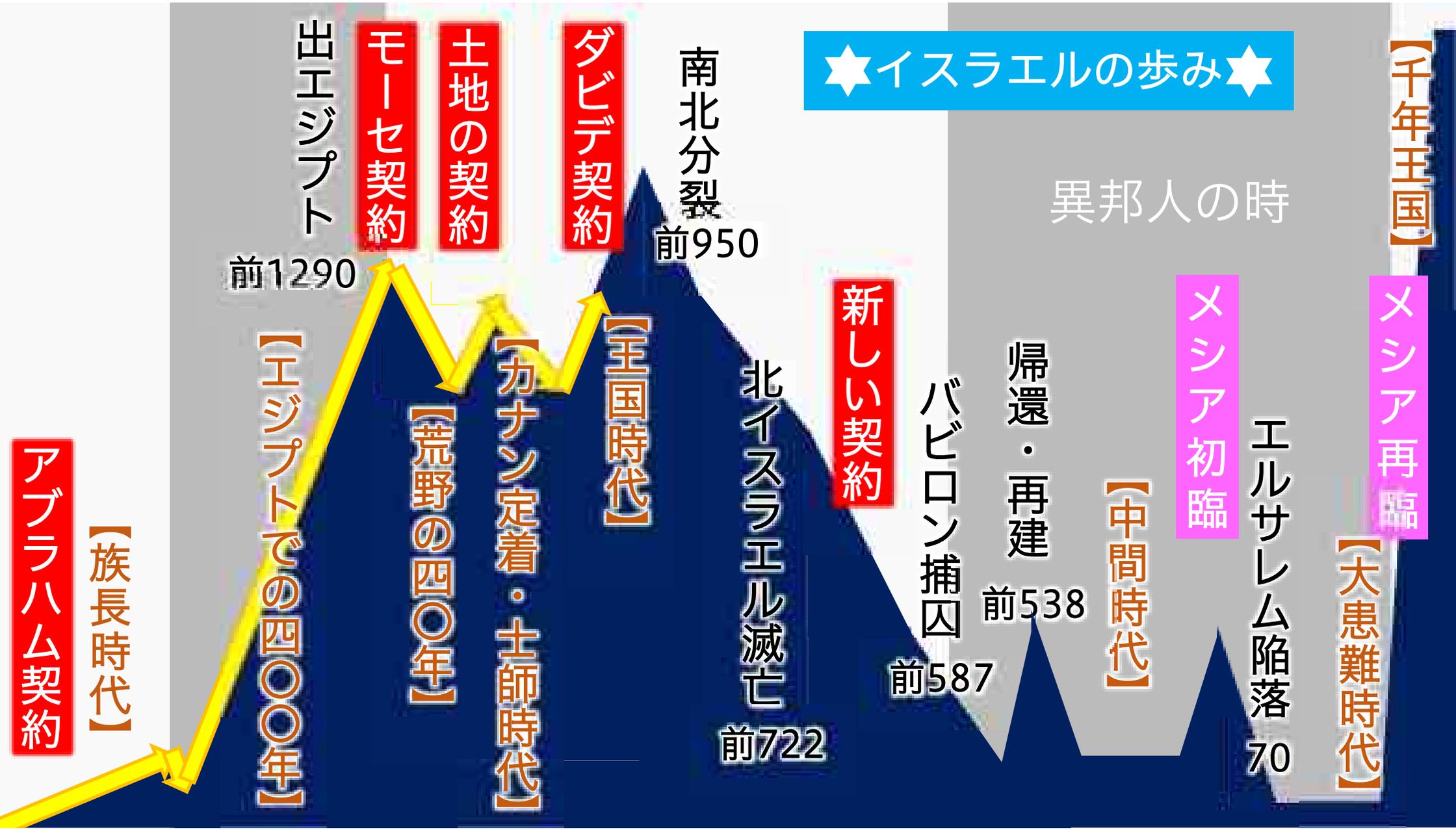
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



歴代誌とは？

- 署名 …ヘブル語聖書 「ディプレ・ハヤミム(その時代の記録)」
七十人訳聖書 「パラレイポメナ(省略)」
- 著者 …不明。エズラ？(ユダヤの伝承)
用語、文章構成がエズラ記、ネヘミヤ記に似ている
→まとめられたのはバビロン捕囚後？(捕囚にも言及)
- 構成 …本来、第一と第二で一つの書。七十人訳で分割。
歴代誌第一 →サムエル記第一・第二
歴代誌第二 →列王記第一・第二
- 内容 …イスラエルの祭儀、礼拝、とりわけ**神殿**のこと。

神の栄光は
神殿に宿る

歴代誌 第一

系図	1～9章	アダムからサウルまでの系図 メシアの系譜 祭司の系譜 12部族それぞれの系譜
サウル王	10章	サウル王の罪と死
ダビデ王	11～12章	ダビデ王の即位 ダビデの軍勢
	13～16章	ダビデと契約の箱
	17章	ダビデの 神殿建設 の願い → ダビデ契約 (17:10～14)
	18～20章	ダビデの勝利
	21章	人口調査と疫病
	22～26章	神殿建設の準備 …祭司・奏楽者・門衛の組織
	27章	軍事と政治におけるリーダーたち
	28～29章	ダビデの晩年

神殿建設
準備に
スポット



ダビデのあしどり

- 主はダビデに、ダビデの王家を永遠に守り導くこと、子孫にメシアが誕生することを告げた。 → **ダビデ契約**
- 周辺国の平定間近のある時、ダビデは、**バテ・シェバ**と姦淫を犯し、夫ウリヤを戦死に見せかけ殺害した。
- 息子**アブサロム**に王権を奪われ、ダビデは都落ち。アブサロムがヨアブに討たれた後に、王座に復帰した。
- 神の意に背き人口調査を行う罪を犯したダビデは、主に従い、**麦打ち場**を買い取り、犠牲を捧げ礼拝した。



取得された
神殿用地



I. 神殿建設の準備

歴代誌 I 22章

【神殿建設の準備開始】 | 歴代誌22:1~3

そこで、ダビデは言った。「これこそ神である【主】の宮だ。これこそイスラエルの全焼のささげ物の祭壇だ。」

ダビデは命じて、イスラエルの地にいる寄留者*を召集し、神の宮を建てるため、石材を切り出す石切り工を任命した。

ダビデは、門の扉の釘や留め金用の鉄を大量に用意し、青銅も量りきれないほど多く用意した。

■ この麦打ち場こそ神殿建設地と知ったダビデ。

➡ *技術を持った異邦人の寄留者が石切り工に!!



【ダビデが用意した建築資材】 | 歴代誌22:4~5

杉材も数えきれないほど用意した。シドン人とツロ人が、大量の杉材をダビデのもとに運んで来たからである。

ダビデは言った。「わが子ソロモンは、まだ若く力もない。【主】のために建てる宮は、壮大なもので、全地で名声と栄誉を高めるものでなければならない。それゆえ、私が用意をしておく。」こうして、ダビデは彼が死ぬ前に多くの用意をしておいた。

*ツドン人、ツロ人 …当時は豊かな森があり、優れた木工技術があった。



【継がれる使命】 | 歴代誌22:6~8

ダビデはその子ソロモンを呼び、イスラエルの神、【主】のために宮を建てるように命じた。

ダビデはソロモンに言った。「わが子よ。私は、わが神、【主】の御名のために宮を建てる志を持ち続けてきた。しかし、私に次のような【主】のことばがあった。『あなたは多くの血を流し、大きな戦いをしてきた。あなたがわたしの名のために家を建ててはならない。わたしの前に多くの血を地に流してきたからである。』



【平和の子】 | 歴代誌22:9~10

『見よ、あなたに一人の男の子が生まれる。彼は穏やかな人となり、わたしは周りのすべての敵から守って彼に安息を与える。彼の名がソロモン*と呼ばれるのはそのためである。彼の世に、わたしはイスラエルに平和と平穏を与える。』

彼がわたしの名のために家を建てる。彼はわたしの子となり、わたしは彼の父となる。わたしは彼の王座をイスラエルの上にとこしえに堅く立てる*。』

*ソロモン = “平和” シャローム = “平安を”

*ソロモンにも引き継がれる“ダビデ契約”



【ソロモンへの祝福】 | 歴代誌22:11

そこで、わが子よ、【主】があなたとともにおられ、主があなたについて語られたとおり、あなたが、あなたの神、【主】の宮を立派に建て上げることができるようになるように。

ただ、どうか【主】があなたに思慮と悟りを与えて、あなたをイスラエルの上に任命し、あなたの神、【主】の律法を守らせてくださるようになるように。

【主】がイスラエルのためにモーセに命じられた掟と定めをあなたが守り行うなら、あなたは栄える。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。

律法遵守が
繁栄の基礎

【ダビデが備えたもの】 | 歴代誌22:14~16

見なさい。私は困難な中で【主】の宮のために、金十萬タラント(340kg)、銀百萬タラント(3.4 t)を用意した。また、青銅と鉄はあまりに多くて量りきれない。それに、木材と石材も用意した。あなたは、これらにもっと加えなさい。

あなたのもとには、石を切り出す者、石や木に細工する者、各種の仕事に熟練した者など、多くの仕事をする者がいて、金、銀、青銅、鉄を扱うが、その人数は数えきれない。立ち上がって、実行しなさい。【主】があなたとともにいてくださるように。」

すべて備えられ、ソロモンには実行あるのみ！



【イスラエルへの激励】 | 歴代誌22:17~19

また、ダビデはイスラエルのすべての長たちに、その子ソロモンを助けるように命じた。

「あなたがたの神、【主】は、あなたがたとともにおられ、周囲の者からあなたがたを守って安息を与えられたではないか。実に、主はこの地の住民を私の手に渡され、この地は【主】の前とその民の前に服した。

今、あなたがたは心とたましいを傾けて、あなたがたの神、【主】を求めよ。立ち上がって、神である【主】の聖所を建て上げ、【主】の御名のために建てられる宮に、【主】の契約の箱と神の聖なる用具を運び入れよ。」



主を求め
主の神殿を
建て上げよ



II. 主の宮の奉仕者 歴代誌 I 23章

再現された幕屋

【レビ人】 | 歴代誌23:1~3

ダビデは日を重ねて年老い、その子ソロモンをイスラエルの王とした。

彼はまた、イスラエルのすべての長たち、祭司、レビ人を集めた。

レビ人のうち、**三十歳以上***の者を数えたところ、その男子の頭数は三万八千人であった。

*レビ人は、30~50歳まで、宮に務めた(民4:3)

➡ここでのレビ人の人口調査は御心に適ったこと。



【レビ族の四つの奉仕】 | 歴代誌23:4~5

「そのうち、【主】の宮の務め*を指揮する者は二万四千人、つかさとさばき人*は六千人、四千人は門衛*となり、四千人は私が賛美するために作った楽器を手にして、【主】を賛美する者*となりなさい。」

*宮の務め …宮での祭儀。中心は犠牲のささげ物。

*つかさ,さばき人 …宮の管理。

*門衛 …宮の警備。

*賛美する者 …奏樂者。



【レビ族】 | 歴代誌23:6~23

ダビデは彼らを組に分けた。レビ族を、ゲルシヨン、ケハテ、メラリに分け、ゲルシヨン人をラダンとシムイに分けた。

3:13 アムラムの子は、**アロン***と**モーセ***。**アロン***は、最も聖なるものを聖別するのに選り分けられた。それは、彼とその子たちが、とこしえに【主】の前に香をたき、主に仕え、とこしえに主の御名によって祝福するためである。

23:14 **神の人モーセ***の子孫は、レビ部族の者として名を呼ばれた。

***アロン** →大祭司の系譜は、代々アロンから。

***神の人(預言者)モーセ**

ゲルシオン

ラダン

シムイ

エビエル

ゼタム

ヨエル

エビエル

ゼタム

ヨエル

アムラム

アロン

モーセ

ゲルシヨム

シエブエル

エリエゼル

レハブヤ

ケハテ

イツハル

へブロン

シエロミニテ

エリヤ

アマルヤ

ヤハジエル

エカムアム

ウジエル

ミカ

イシヤ

メラリ

マフリ

ムシ

エルアザル

キシユ

マフリ

エデル

エレモテ

レビ族

【奉仕への専念】 | 歴代誌23:24~26

これは、それぞれ父祖の家に属するレビ族で二十歳以上になり、【主】の宮の奉仕の仕事をした者であり、一人ひとり名を数えられ、登録された一族のかしらたちであった。

ダビデがこう言ったからである。「イスラエルの神、【主】は、御民に安息を与え、とこしえまでもエルサレムに住まわれる。レビ人も、幕屋を運んだり、奉仕に用いるすべての器具を運んだりする必要はない*。」

*荒野では、幕屋、祭具の運搬がレビ人の仕事だった。

➡永遠の宮では、本来の礼拝の奉仕に千年する。



【レビ人の奉仕】 | 歴代誌23:27

これらが、ダビデの最後のことばにしたがって数えられた二十歳以上のレビ人の数である。

彼らの役目は、【主】の宮に仕えるアロンの子ら*を、庭、脇部屋、すべての聖なるものに関わるきよめ、また、神の宮での奉仕のわざをもって助けることである。

*アロンの子ら → 祭司

■ レビ人の務めは、宮での祭司の奉仕のサポート。

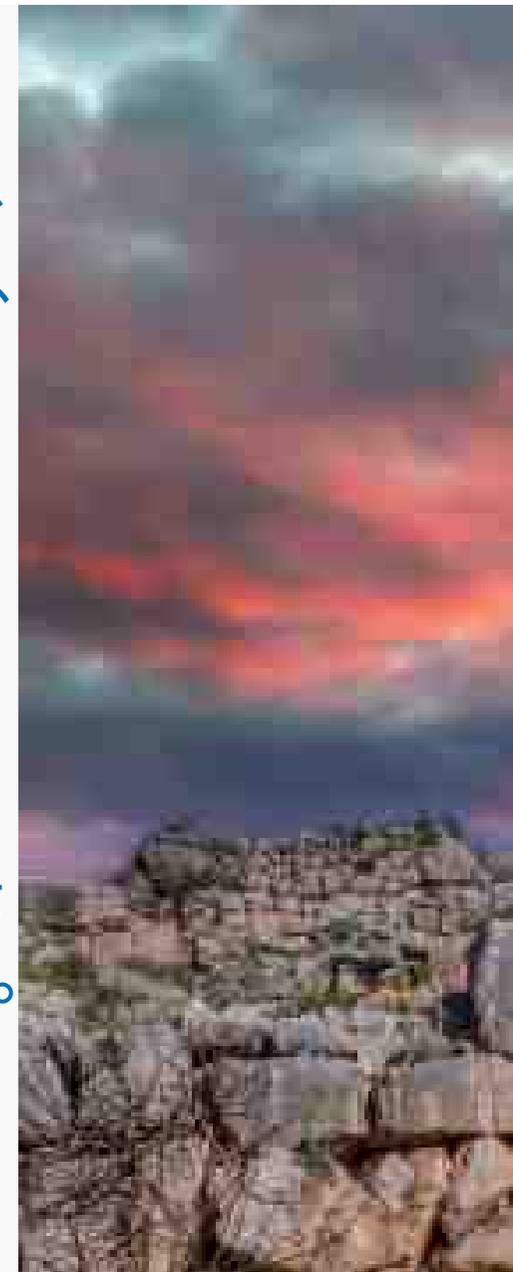


【レビ人の奉仕】 | 歴代誌23:29~32

また、彼らは、並べ供えるパン、穀物のささげ物の小麦粉、種なしの薄焼きパン、平鍋、混ぜ合わせたもの、また各種の量や大きさを計ること、朝ごとに、立って【主】をほめたたえ、賛美し、夕べにも同様にすること、安息日、新月の祭り、および例祭ごとに、【主】に献げられるすべての全焼のささげ物が、【主】の前に絶えず、定められた数で献げられることについても責任を負う。

彼らは、【主】の宮の奉仕に関して、会見の天幕の任務、聖所の任務、同族アロンの子らの任務に当たった。

■ レビ人は、すべての奉仕を**律法**に従い、担った。



Ⅲ. 祭司の組み分け

歴代誌24章



アロンの子ら 祭司の系譜

2倍の祝福

長子権



アロン

異なる火を
注いだため
主に打たれる



ナダブ



アビフ



エルアザル



イタマル

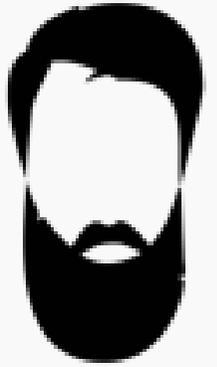
1 歴24:2 ナダブとアビフは父に先立って死に、彼らには子が
いなかったため、**エルアザル**と**イタマル**が祭司の務めに就いた。

【祭司の二つの系譜】 | 歴代誌24:3

ダビデは、エルアザルの子孫の一人ツアドク、およびイタマルの子孫の一人アヒメレクと協力して、アロンの子らをそれぞれの奉仕に任命し、それぞれの組に分けた。エルアザルの子孫のほうが、イタマルの子孫よりも一族のかしらが多かったので、エルアザルの子孫は、父祖の家のかしらごとに十六組に、イタマルの子孫は、父祖の家ごとに八組に分けられた。

■長子権のあるエルアザルの子孫は、16組(2倍)

イタマルの子孫は、8組



エルアザルの子孫

16組



イタマルの子孫

8組

エルアザルの子孫(長子権ゆえ2倍)

イタマルの子孫

①エホヤリブ

②エダヤ

③ハリム

④セオリム

⑤マルキヤ

⑥ミヤミン

⑦ハ・コツ

⑧**アビヤ**

⑨ヨシュア

⑩シャカンヤ

⑪エリヤシブ

⑫ヤキム

⑬フバ

⑭シェブアブ

⑮ビルガ

⑯イメル

⑰ヘジル

⑱ハ・ピツェツ

⑲ペタフヤ

⑳エヘズケル

㉑ヤキン

㉒ガムル

㉓デラヤ

㉔マアズヤ

洗礼者ヨハネの父
ザカリヤの組



祭司の組み分け

24:19 これらが【主】の宮に入って奉仕するために登録された者たちで、彼らの先祖アロンが、イスラエルの神、【主】の命令にしたがって定めたとおりである。

【祭司以外のレビ族】 | 歴代誌24:20~43

残りのレビ族については、次のとおりである。

…これが、それぞれその父祖の家に属するレビの子孫である。彼らもまた、彼らの同族であるアロンの子らと全く同じように、ダビデ王、ツアドク、アヒメレク、祭司とレビ人の一族のかしらたちの前で、くじを引いた。一族では、かしらもその弟と全く同じであった。

- アロンの子(祭司)以外のレビ族すべても、くじ(神の意志)により一族ごとに奉仕の役割を与えられた。
- ➡一族内では、兄弟内で奉仕の違いはなかった。





IV. まとめと適用

生ける神殿の建て上げこそ私の使命

【主の栄光が住まわれる神の宮】

- 最初の人々が罪を犯したとき、地上を去った**神の栄光**は、律法が定めた**幕屋**が完成したとき、再び地上に降り立った。
→イスラエルを守り導いたのは常に、**神の栄光**。
- 神殿**建設(**神の栄光**の定住)は、永遠の王国の建設を示す。
ダビデと子孫の永遠の王座が約束され、永遠の王国が建てられる。
- エルサレムの**神殿**建設は、**神の栄光**が完全に世界を満たす神の定めたゴールに向かう、大きな前進、大きな一歩。

【神の栄光そのものであるメシア、イエス・キリスト】

- やがてイスラエルの背きにより、**神の栄光**は一時、神殿を去る。
- **神の栄光**は、メシアとして世に来られ、救いの御業を完遂された。
- 天に昇られ、真の大祭司となったメシアは、王の王、主の主として**栄光**の姿で再臨され、すべての悪を裁き、世界を回復される。
- 最終的には、**神の栄光**が世界のすべてを照らす時が来る。

【ダビデに学ぶ、礼拝者であるということ】

- 歴代誌には、ダビデの犯した最大の罪は記されていない。
- ダビデは、主の約束を信頼して、神の目に義と認められた。その後、罪を犯すが悔い改め、罪の刈り取りを甘んじて受けた。
- 聖書はダビデを、後にも先にもない偉大な礼拝者として記す。礼拝とは、**主を信じて罪ゆるされた者の最大の特権**だと知ろう。
- 全身全霊で捧げた礼拝者のすべてを、主は喜んで受け取られる。今、この礼拝は、永遠の王国の真実の礼拝へとつながっている。

【主の栄光が住まわれる神の宮にふさわしく】

- エルサレムの神殿から**神の栄光**は去り、神殿すらなくなって久しい。
- 今、福音を信じた、**私、あなた自身**が、**神の栄光**の住まわれる宮。
この宮に使える奉仕者、宮をきよめる祭司は、**私、あなた自身**。
- レビ人、祭司が、**神の律法にのみ**仕えたように、
私たちは、**聖書にのみ、キリストの律法のみ**に仕えるべき。
- 常に、第一に、**御言葉にのみ**立ち続けよう。
聖書が記す神の計画の全貌を理解し、今なすべき務めを尽くそう。

【ダビデとイスラエルから学ぶ、宮の祭司としてののつとめ】

- 聖霊を注がれた王ダビデも、祭司の民イスラエルも罪を犯した。ありえないという状況に、たやすく陥るのが罪ある私たち。
- 一つの小さな罪が、私たちのか細い信仰を足元から粉々に突き崩す。私自身を栄光の姿に変えてくださる、**主から目を離さず歩もう。**
- なにがあろうと、**ただ御言葉にしがみつき続ける。**それしかない。ますますもって、聖書しかない。聖書がすべて。これ以上はない。敵は巧妙に、私の弱さを狙い撃つ。**必死に主にしがみつき続けよう。**

自分の宮を御言葉できよめよう 聖霊が最大限に働かれるために

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

今あたえられている 礼拝(れいはい)のめぐみに

心からの感謝(かんしゃ)を ささげます。

礼拝こそ、罪ゆるされた私たちに与えられた

最大(さいだい)の特権(とっけん)です。

私のからだ、心、魂(たましい)、精神(せいしん)のすべてを

御前(みまえ)に おささげします。

御言葉(みことば)で この宮(みや)なる身(み)をきよめ、

ご聖霊(せいれい)の満(み)たしの内に、遣(つか)わしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」